

令和2(2020)年度 事業計画

(事業期間 令和2(2020)年4月1日～令和3(2021)年3月31日)

I 基本方針

当保存会は、明治12年に設立された「保晃会」を前身に、社会情勢や文化財にかかる制度の変化に応じ、組織の改編や名称の変更等を行いながら二社一寺の国宝、重要文化財等建造物（指定建造物）の修理を連綿と続けてきた。その先人たちが残してくれたかけがえのないものを、確実に次代に引き継ぐ役割を担っていることの強い自覚と誇りをもって、文化財の文化的価値の維持に努め、国民の文化的向上に寄与するため、次の事業活動を展開する。

なお、本年度から新たな修理周期となるが、これまでと同様な事業費が確保できなくなることから、積極的に経費の縮減に努めるものとする。

- (1) 文化財建造物の修理事業の着実な推進
- (2) 文化財建造物及びその周辺の防災施設・設備等の適切な維持管理
- (3) 修理工事現場等における安全衛生管理体制の構築及び運用
- (4) 計画的な後継者養成
- (5) 積極的な周知活動

II 指定建造物保存修理事業（国庫補助事業）

「文化財保存事業費関係補助金交付要綱」・「同国庫補助実施要領」・「重要文化財(建造物・美術工芸)修理、防災事業費国庫補助要項」に基づき、以下の事業を国庫補助を受けて実施する。

1. 事業費

(単位：千円)

事業主体	項目	工事経費	耐震対策費	設計監理料	合計
二荒山神社	現年度	0	23,000	8,500	31,500
	繰越分	25,920	0	7,080	33,000
東照宮		138,863	180,510	80,627	400,000
輪王寺		165,000	72,600	59,400	297,000
合計		329,783	276,110	155,607	761,500

※各金額は、千円未満を四捨五入している。

2. 事業概要

対象物件		内 容
二 荒 山 神 社	神輿舎 末社朋友神社本殿 中宮祠拝殿	(令和2年度～7年度) 委託業務 ・耐震基礎診断で用いる地盤データ採取のため、本社境内及び中宮祠境内での地質ボーリング調査 ・神輿舎における耐震基礎診断
	本殿	(平成26年度～令和元年度、繰越) 屋根工事銅板葺復旧における工程遅延による繰越対処 ・仮設工事：素屋根、資材搬入路等解体・撤去、 各仮設設備撤去 ・基礎工事：縁石据直し、地盤鋤取り・玉石敷 ・漆塗工事：屋根銅板 黒漆塗 ・雑工事：自動火災報知設備復旧、雨樋復旧、 畳補修・取替え、修理銘札作成
東 照 宮	<p>*東・西透塀(2棟)</p> <p>*背面唐門(1棟)</p> <p>*下神庫(1棟) 彫子塀(1棟) 鐘舎(1棟)</p> <p>*非常門(1棟) 仮殿鐘楼(1棟)</p> <p>*・下線で記した建物は、令和2年度から修理工事に着手予定の物件</p>	<p>◎委託業務</p> <p>耐震基礎診断の性能評価データ採取の一環として、全8棟の地質ボーリング調査を実施し、地盤振動特性を把握する。</p> <p>◎本工事</p> <p>東・西透塀（令和2年度～令和4年度、3か年継続） 請負施工＝仮設、木工、彩色、金具、雑工</p> <p>・仮設工事：素屋根建設、同存置・損料、同維持管理、資材運搬・荷揚げ、電気設備、自火報設備、消火器他備品設置</p> <p>・木 工 事：腐朽具合の破損調査、嵌込み彫刻の補修</p> <p>・彩色工事：蹴込彫刻東面10体、北面10体の彩色改め</p> <p>・金具工事：銙金具の取外し、三遍鍍金44.5㎡の再生</p> <p>・雑 工 事：自火報在来空気管・感知器取外し</p> <p>直営施工＝漆塗、彩色</p> <p>・漆塗工事：北側背面通りを対象範囲に、柱などを除く主要部の漆塗り直し</p> <p>・彩色工事：北側背面通り西半を対象範囲に、蹴込並びに欄間嵌め彫刻延べ15体の彩色改め</p>

東照宮		<p>背面唐門（令和2年度～令和3年度、2か年継続）</p> <p>請負施工＝木工、金具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木工事：腐朽具合の破損調査を行い、修理箇所の有無を確認 ・金具工事：銕金具の取外し、三遍鍍金全員数の再生並びに欠失分の新規作製補足 <p>直営施工＝漆塗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漆塗工事：漆塗全面の塗り直し（彩色下地は次年度） <p>下神庫（令和2年度～令和7年度、6か年継続）</p> <p>請負施工＝仮設、雑工（附帯工事）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮設工事：素屋根建設、同存置・損料、同維持管理、資材運搬・荷揚げ、電気設備、自火報設備、消火器他備品設置 ・雑工事：素屋根建設に支障する公衆トイレ既通路を代替し、工事期間中の仮設通路を構築 <p>非常門（令和2年度～令和3年度、2か年継続）</p> <p>請負施工＝仮設、木工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮設工事：素屋根建設、同存置・損料、同維持管理、資材運搬・荷揚げ、電気設備、自火報設備、消火器他備品設置 ・木工事：板戸、柱、蹴放、控柱・同貫など、腐朽部材の取替え並びに繕い補修 <p>共通工事（令和2年度～令和7年度、6か年継続）</p> <p>請負施工＝共通仮設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通仮設工事：作業員休憩所設置、同所内什器・備品・諸設備、同所電気設備、防火設備、光熱水費（現場及び境内休憩所並びに当休憩所使用の電気代）
輪王寺	慈眼堂拝殿(1棟)	<p>（令和2～7年度、6か年度継続）</p> <p>塗装工事：内部の彩色塗装面剥落止処置</p> <p>仮設工事：内部足場・素屋根建設40%程度、休憩所・トイレ・仮設鉄板敷仮設通路等の仮設</p>

輪 王 寺	護法天堂(1棟)	(令和2~5年度、4か年度継続) 仮設工事:素屋根建設、休憩所・トイレ・電気設備・火報 設備・枝払等
	相輪櫓(1棟)	(令和2~3年度、2か年度継続) 仮設工事:素屋根建設、休憩所・トイレ・電気・火報・枝 払・移植等
	地質調査・解析	慈眼堂拝殿・護法天堂・相輪櫓周辺、ボーリング(12点)

Ⅲ 観光拠点整備事業

(文化観光充実のための国指定等文化財磨き上げ事業(旧略称:美装化事業))(国庫補助事業)

1. 事業費(補助率:国50%) (単位:千円)

事業主体	項目	工事経費	—	設計監理料	合計
二荒山神社		80,000		14,300	94,300

※設計監理料は18%を計上
※金額は、千円未満を四捨五入

2. 事業概要

対象物件	内容
二荒山神社 神橋	(令和2年度~3年度) ・仮設工事:素屋根建設及び存置借損料、各仮設設備設置、 作業員休憩所建設、光熱費等 ・漆塗工事:橋板上端及び木口 弁柄本直 本体高欄 弁柄上塗直(筋布着せ25%) ・木工事:一部木部補修

Ⅳ 文化財建造物及びその周辺の防災施設等整備事業(補助事業及び自主事業)

1. 事業費(補助率:国65%) (単位:千円)

事業主体	項目	工事経費	—	設計監理料	合計
二荒山神社	現年度	0		0	0
	繰越分	16,500		2,500	19,000
東照宮	現年度	3,960		540	4,500
	繰越分	0		0	0
輪王寺	現年度	0			0
	繰越分	94,435		11,565	106,000

保 存 会	現年度	0		0	0
	繰越分	3,575		425	4,000
合 計		118,470		15,030	133,500

※設計監理料は12%を計上
 ※金額は、千円未満を四捨五入

2. 事業概要

対 象 物 件		内 容
二 荒 山 神 社	本殿ほか22棟	(令和元年度～3年度) <ul style="list-style-type: none"> 消火設備：滝尾神社電動ポンプ設備の改修(令和元年度繰越) 遠隔操作装置の機能改善、操作盤取替え 監視カメラ設備：既設監視カメラ設備の改修(令和元年度繰越) カメラ等取替え、配線等布設直し
東 照 宮	本殿、石の間及び 拝殿ほか39棟	(令和2年度～3年度) <ul style="list-style-type: none"> 警報設備：自動火災報知設備の新規設置整備 水屋、奥社銅神庫 消火設備：凍結防止排水弁の改善補修 境内の8か所
輪 王 寺	本堂(三仏堂)ほか 37棟	(令和元年度～3年度) <ul style="list-style-type: none"> 消火設備：凍結防止排水弁の改善補修(令和元年度繰越) 輪王寺、大猷院霊廟境内の13か所 警報設備：自動火災報知設備の新規設置整備(令和元年度繰越) 大猷院霊廟水屋、同銅包宝蔵 自動火災報知設備の補修(令和元年度繰越) 大猷院霊廟夜叉門 空気管一部張直し 監視カメラ設備：監視カメラ設備の新規設置整備(令和元年度繰越) 電路布設、配線、設置ポール建柱等
保 存 会	本地堂(薬師堂)	(令和元年度) <ul style="list-style-type: none"> 警報設備：自動火災報知設備の補修(令和元年度繰越) 両側・背面の軒先廻りにおける空気管張直し その他設備：感震機能付きブレーカーの設置整備

2. 防災設備維持事業

次の防災設備維持事業を委託及び直轄により実施する。

(1) 指定文化財管理事業（防災保守点検）（国・県費補助事業）

自動火災報知設備、消火設備（放水銃・消火栓・電動ポンプ・ドレンチャー等）

の法定点検、避雷設備及び電源引き込み設備（キュービクル）の点検等を専門業者委託により行う。

事業費（委託料補助率：国 24%・県 24%）（単位：千円）

所有者	経費 委託料	業務管理費	合計	備考
二荒山神社	1,232	147	1,379	業務管理費は委託料の12%を計上
東照宮	2,343	281	2,624	
輪王寺	2,244	269	2,513	
合計	5,819	697	6,516	

※各金額は、千円未満を切上げ

(2) 防災設備の維持（自主事業）

ア) 自動火災報知設備及び消火設備等の異常時又は故障時には、直ちに所有者と協議し、速やかにその対応措置を行う。この場合、直轄で対応しがたいときは、専門業者等の協力を得て行うものとする。

イ) 導水路（側溝水路）、貯水槽等の水量及び水位の調整を行う。

ア)・イ)に関しては、各所有者において予算化措置（50万）

(3) 共通消火設備 ホース取替え（自主事業）

山内の各所道路脇に設置している消火栓設備において、殆どの消防ホースが設置より15年経過した。消防法により製造後10年を経過したものは、新品交換又は3年毎の耐圧試験の実施が定められており、また、日光消防署における立入り火災予防査察においても、ホースの交換を指摘され、改善が必要となっていることから、既設ホースの処分の上、全数交換を実施する。

交換箇所：23箇所 ホース種類：50A×20m 員数：90本

事業費：225万円（二荒山神社負担：75万、東照宮負担：75万円、輪王寺負担：75万円）

(4) 本地堂(薬師堂) 電気設備改修（自主事業）

上新道より埋設配線されている電源ケーブルが老朽化によって絶縁不良となっているため、ケーブルの引替えを行う。また、建物内配線も経年劣化が著しいことから、配線・コンセント・照明等の取替えを行う。（平成28年度計画、延期中）

事業費：600万円（東照宮負担：300万円、輪王寺負担300万円）

V 文化財建造物修理に係る技術等に関する資料収集、調査研究等事業

1. 加湿温風殺虫処理方法の実用化（自主事業）

① 事業内容

当該システムが国庫補助事業として、文化庁の承認を獲得するため以下の3条件をクリアするものとする。

ア) 湿度制御した温風処理システムを使用できる事業体が最低 2 以上必要であること。

⇒新たな事業体として、関西電力グループの株式会社環境テクノスを参画させる。

イ) 湿度制御した温風処理システムを使用した成功事例が 3 以上必要であること。

⇒湿度制御した温風処理システムを使用した第 3 番目の施工に、二荒山神社神楽殿(チビキノコシバンムシ生息)で、2021 年の秋頃の施工を目標とする。経費は株式会社環境テクノスが支出し、保存会は湿度制御した温風処理システム機器一式を無償提供する。

ウ) 今後、このシステムが実用化・実施となった場合、これまでの研究グループによる指導・検証を得る体制があること。

⇒京都大学の藤井教授をリーダーとして、指導・検証が出来る体制づくりの研究会を令和 2 年度中に発足予定。(経費は京都大学の研究費から支出)

これまでの研究データをすべて関西電力に公開した。現在、兵庫県尼崎市内の関西電力施設で、同仕様の試験装置を製作し、公開データの検証を実施中、模倣から新たな改良を行い、順調に進めば 2021 年の秋頃、二荒山神社神楽殿の加湿温風殺虫処理を施工する。

② 事業費：原則として支出なし

2. 彩色関係調査研究（自主事業）

(1) 唐油彩色における唐油製作及び顔料調査

① 事業内容

これまでの修理に使用された唐油彩色では施工後の油の流れや顔料の変・退色などが確認できる。調合された唐油が本来の乾性油の仕立て方として適当であったかの判断を様々な文献資料やそれによる試験を行い、試料の比較等によって唐油彩色に最適な唐油の製法を確立させる。また併せて耐候性に問題のあるレーキ顔料の代替品の選定も行い、成果は二社一寺建造物保存修理に活用する。

② 事業費：25 万円

③ 事業計画

令和 2 年度	唐油試料製作、手板製作、屋外暴露試験、促進劣化試験、顔料試験、顔料劣化試験
---------	---------------------------------------

(2) (仮)置上・下塗用胡粉の代替胡粉に係る研究

① 事業内容

二社一寺の建造物彩色では置上及び下塗に本代胡粉（通称：七ツ判胡粉）を使用してきたが、近年製造所廃業の連絡があった。この胡粉は粒子が荒く置上及び漆下地に対する彩色の下塗に適していた。現在当会の在庫（約 60 kg。年間使用量は約 10 kg）があるうちに、代替え胡粉を選択するための調査研究を 3 ヶ年計画で行い代替え胡粉を決定する。また、成果は二社一寺の建造物保存修理に活用する。

② 事業費（税込み）

年 度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	合計
金 額	300 千円	200 千円	100 千円	600 千円

③ 事業計画

令和 2 年度	本代胡粉及び代替え候補の基本物性の把握（粒度分布、原材料同定、資料収集、製造所の特定、付着力、促進劣化）
令和 3 年度	前年度に選択した代替え候補を使用して彩色手板を作製し彩色層とした場合の付着力、促進劣化、屋外暴露の試験を行い、候補品製造所の視察を行う。
令和 4 年度	前年度までに選択した代替え候補の再試験を行い成果の資料化を行う。

VI 文化財建造物の修理技術者養成研修事業

1. 漆塗・彩色技能者養成研修事業（国庫補助事業）

選定保存技術に認定されている建造物彩色及び建造物漆塗について、保持団体としてそれらの技能者養成研修を次の要領で実施する。

総事業費 11,968 千円

研修項目	彩色技能者養成研修	漆塗技能者養成研修
目 的	建造物彩色技術を伝承させるための技能者を養成する。	日本産漆の特徴と塗装技術を熟知する。
研修内容	技能者養成研修 実技：彫刻彩色 講義：建造物彩色及び技法・材料 見学：講義に関連した建造物見学 講師養成研修 講義：建造物彩色修理事例、彩色技	中級研修・実務経験 6 年以上の社美協会員を中心に新模型を使い、日本産漆の塗装技術を体得する。 講師養成研修・保存会職員を中心に日本産漆を掻き取る実習と精製工場見学し、漆の特徴を会得する。

	法・材料、法規等 見学：建造物修理現場、材料製造所	
研修対象者・人数	技能者養成研修：8名 (実務経験が10年未満) 講師養成研修：6名 (保存会職員が主対象)	社美協会員7名 保存会職員5名
研修期間	技能者養成研修 延12日間 講師養成研修 延5日間	中級研修 延12日間 講師養成研修 延5日間
事業費	5,546千円	6,012千円

2. 上記研修に使用する実物大建物模型（神社様式）の製作（自主事業）

(1) 目的

本事業は、彩色・漆塗研修において架構体（柱、梁等）のように取り外さずに修理を行うことを想定し、実物と同様な状況を作り出し訓練することにより、一層習熟度を上げることを目的に製作するものである。

また、伝統建築の保存修理に関連する幅広い教材として、外部の関係者等にも供用していくことも目的とする。

(2) 製作物の仕様概要

- ・形式：流造形式小規模神社本殿（二荒山神社朋友神社本殿をひな型とする）1棟
- ・屋根：柿葺型銅板葺き・棟頂箱棟
- ・金具：一部鋳金具製作、取付け
- ・階段：浜縁付木階5段
- ・建具：正面、背面板唐戸

(3) 業務委託

ア) 契約相手方：株式会社 社寺建

イ) 履行期間：平成30(2018)年12月3日～令和3(2021)年3月10日

ウ) 委託料：金32,400,000円（うち消費税相当額2,400,000円）

エ) 支払計画：平成30(2018)年度 12,636千円

平成31(2019)年度 0千円

令和2(2020)年度 13,284千円

令和3(2021)年度 6,480千円

VII 文化財建造物の保存等に資する普及啓発事業

(1) 修理現場の視察・研修の受入れ（自主事業）

行政機関や公共機関主催による講座や、文化財関係団体等による修理現場の視察・研修依頼については、保存会の業務に支障のない範囲で受入れをし、文化財建造物保存修理の重要性を学習してもらう。

(2) 関係団体主催行事等への参加

ア) 日本の技体験フェアへの参加（協賛事業）

文部科学省より選定保存技術に選定されている保存会の建造物漆塗・彩色技術の特殊性、必要性などを紹介するために、文化庁主催の日本の技体験フェア「ふれてみよう！文化財を守り続けてきた匠の技」に積極的に参加する。

なお、令和2年度は東京都で予定されている。

VIII その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1. 保存会建物建替事業（自主事業）

(1) 経緯

平成20年7月に策定した施設整備計画に基づき、「漆塗・彩色作業棟」、「木工作业棟」の建替えが完了し、「金具作業棟」と「事務所棟」の整備が残されていた。事務所棟については、平成28年度第2回理事会（平成29年3月9日開催）で、旧東照宮宝物館への移転が承認され、吹付アスベスト分析調査及び劣化度調査を平成29年度に実施。平成30年度に耐震診断及び改修実施設計を実施した。平成31年度に改修工事を行い、令和2年度に事務所を移転する。

なお、旧東照宮宝物館は、「造形の規範となっているもの」として、平成30年5月10日付で国の登録文化財に登録されている。

(2) 事業計画

(単位：千円)

	施設名	事業費	内 容
平成20年度	漆塗・彩色作業棟	35,700	P造2階建 延べ463.98㎡
平成28年度	木工作业棟	19,980	P造平屋建 延べ178.2㎡
平成29年度	事務所棟(調査)	1,100	アスベスト調査、劣化調査
平成30年度	事務所棟(設計)	12,960	耐震診断、改修実施設計
平成31年度	事務所棟(工事)	275,300	改修工事
令和2年度	事務所棟(移転)	20,000	残工事及び引越し費用
令和3年度以降	金具棟(設計・工事)	203,500	旧事務所解体整地後 S造2階建一部平屋 延べ356.4㎡
合 計		568,540	

2. 「平成の大修理」工事記録の制作（自主事業）

(1) 目的

平成 29 年度をもって終了した「日光の建造物修理技術の教材的映像記録」の制作に伴って撮影された映像記録をもとに、「平成の大修理」として各社寺の核心部の建造物の修理工事を行ったことを後世に伝えるため、各社寺の竣工までの過程を修理工事記録として制作する。

(2) 契約相手方及び履行期限

契約相手方：株式会社 日本電波ニュース社

履行期間：平成 30(2018)年 4 月 1 日から令和 3 (2021)年 3 月 31 日

委託料：20,201,400 円（内消費税相当額 1,496,400 円）

(3) 事業計画

（単位：円）

年 度	事業費（税込み）	内 容
平成 30 年度	6,733,800	輪王寺本堂仮編集版制作
平成 31 年度	0	（二荒山神社本殿仮編集版制作）
令和 2 年度	6,733,800	二荒山神社本殿仮編集版制作
令和 3 年度	6,733,800	東照宮（本殿、拝殿、石の間）完成版制作 二荒山神社・輪王寺完成版制作
計	20,201,400	

(4) 成果品の扱い

90 分程度の DVD 200 本を作成し、修理工事に携わった関係者及び同種工事関係団体等に配布する。

3. 設立 50 周年記念事業

(1) 沿革

当法人は、明治 12 年 12 月に設立された「保晃会」を前身に、昭和 25 年 5 月の文化財保護法の施行のもと、社寺の長職 3 名と各界の学識経験者 5 名により「日光二社一寺文化財保存委員会(保存委員会)」が立上げられた。保存委員会は、会務を処理する機関と修理工事等を実施する機関として「日光二社一寺国宝建造物修理事務所(修理事務所)」が組織された。修理事務所は昭和 31 年に「日光国宝保存工事事務所(工事事務所)」に改称され、さらに昭和 44 年 12 月に「日光二社一寺文化財保存事務所」に改称された。これは、昭和 25 年度から始まった昭和の大修理第 1 期事業が昭和 41 年度で終了したことにより、修理が完了した建造物の維持保全を目的とする維持工事部門が昭和 43 年に設けられ組織が強化されたことによる。

この間、昭和 36 年 3 月に本地堂(薬師堂)が焼失し、県が「重要文化財本地堂管理事務所(管理事務所)」を設置し復元にあたった。管理事務所には工事事務所の技術者等

を転籍させ工事にあたらせ昭和43年6月に完成させた。工事事務所は、大正4年に開館した宝物陳列館の付近にあったが、昭和40年に東照宮350年式年の記念事業の一つとして同地に宝物館を建設することになり、工事事務所は現在の保存会事務所の場所に移転した。

本地堂は復元後も県が管理団体となっていた。それ以外の六堂塔については、係争中でもあることから修理に手を付けられない状態を憂いた地裁裁判長が当事者双方に善処することを要望したことにより、昭和44年9月に修理に関する協定が結ばれ、それまでの保存委員会を改組して六堂塔の管理団体を兼ねた修理組織を設立することになった。これを受けて、二社一寺が基金を拠出して昭和45年12月24日に「財団法人日光社寺文化財保存会(保存会)」が設立された。

保存会は、昭和46年1月26日から現事務所地で業務を開始し、昭和54年4月に建造物彩色の選定保存技術保持団体の認定を受け、昭和58年12月本地堂・経蔵の管理団体となった。保存修理事業は、昭和61年度から第3期事業に着手し(～平成14年度)、平成15年度からは、第4期事業(神橋、中神庫、三重塔)に着手した。平成19年度からは各社寺の中心となる建物の修理に取り掛かり、平成31年度(令和元年度)に平成の大修理が完了した。平成25年4月から制度改革により「公益財団法人日光社寺文化財保存会」となる。平成28年9月に建造物漆塗の選定保存技術保持団体となり現在に至る。

2 記念事業

(1) 事務所移転事業

保存会建物建替事業のうち事務所移転事業を記念事業の一つとして位置付け、設立50周年の節目の年に工事事務所のあった旧東照宮宝物館に移転することで、初心に立ち返り、新たな50年に向けて気を一新する。

(2) 記念式典

- ① 開催日時未定。会場は保存会近辺のホテル等を予定する。
- ② 参加予定人数 約80名
- ③ 経費 約100万円

(3) 記念誌発行

- ① これまでの実績紹介
- ② 関係者からの寄稿
- ③ 発行部数 200部(経費は、上記その他を含む。)